

こんな本



読んでみて

June - July 2019

No. 77

三重短期大学附属図書館 

photograph

目次

MIETAN 本つなぎ 第6回	1
photograph	5
Book design の世界 vol.7	10
ちょこちょこ日記 #17	12



三重短生の
おすすめ本をリレーして
三重短を
本でつなげたい！



今回の
本つなぎメンバーは
こちらの2人★



図書館ボランティア部キャラクター
ライブラリアン

さくらさん
法律コース
2年

はとむぎさん
法律コース
2年

ー今日は授業前に時間を取ってもらってありがとうございます。よろしくお願いします。

さくら・はとむぎ よろしくお願ひします。

ー早速ですが、好きな本、おすすめの本を教えてください。まずはさくらさんからお願いします。

さくら 一冊目は『風のなかのマリア』(百田尚樹著/講談社)という本です。これはスズメバチの話なんです。ファンタジーの話ですごくおもしろいんです。

はとむぎ 主人公が人間じゃない？



さくら 人間じゃない。スズメバチの巣の中の暮らしみたいな。表現がすごくきれいで、空を飛んでいるときの表現が一番気に入っています。木の高いところから見た表現とかがすごく上手に書かれています。一生涯を描いている感じの本です。

はとむぎ おもしろそう。結末が気になる！

さくら 二冊目は『置かれた場所で咲きなさい』(渡辺和子書/幻冬舎)です。いい言葉がたくさん載っているんですよ。中でも「きれいさはお金で買えるが、心の美しさは買えない」って言葉が好きです。確かにそうだなという風に思いました。著者の渡辺さんが人生の中で思ったことが書いてあって、読むとすごくためになるなと思いました。

はとむぎ はっとさせられる。題名の「置かれた場所で咲きなさい」っていうのは、どういう意味で言われているの？

さくら これはもともと渡辺さんが言われた言葉じゃなくて、一人の宣教師の方から贈られた言葉で、自分が今いる場所で、今の自分にできることをしなさいという感じでしょうか。

はとむぎ がんばろう。すごい心打たれる。

さくら 三冊目も同じ方の本で『どんな時でも人は笑顔になれる』(渡辺和子著/PHP研究所)です。渡辺さんが亡くなられて、最後に書いていた本ということで購入しました。この本にもたくさんいい言葉が書かれています。

はとむぎ 私が高校の時に、渡辺さんが学校へ講演に来られたんです。本は手に取ったことがなかったので、これを機に読んでみようと思います。

ー次は、はとむぎさんの好きな本の紹介をお願いします。

はとむぎ 中村明日美子先生の漫画を紹介します。『片恋の日記少女』(中村明日美子著/白泉社)っていう短編集です。テンポがよくてさくっと読めるんですけど、それぞれのストーリーが王道ではなくて、みんなキャラクター全員がその場に生きている感じというか、とても丁寧にきれいに描かれる先生で。うまく言えないんですけど、読むたびに、生きているうちにたまった感情がさーっときれいになるというか。あとがきが好きで、「日々の営みの風通しをよくするような一冊になればと。」って、まさにその通りだなと思います。私は結構、重い本を読んでしまうと引きずられるタイプで、読後重い感じになった時とか、忙しくて心がすさんでるなという時にこれを読むと、いつでも立ち返って自分も生きようってなるので、すごく好きな一冊です。



ーそういうリセットできる本があるっていいですよね。

はとむぎ あと単純に絵が好きです。ネットで偶然この絵が好きだということから知って読みました。絵で印象付けられたら、ストーリーも好きでした。

さくら なかなかないよね。

はとむぎ なかなかない運命やなと思って。他のも読みたいなと思っているところです。

ーさくらさん、マンガは読みますか？

さくら 読みます。格闘漫画とか、ボクシングとか、そういうのも好きです。

はとむぎ えー！タイトルは、例えば？

さくら 昔のだと『あしたのジョー』(ちばてつや著/講談社)とか読みました。親が漫画が好きで読んでたので家に大量にあって。昔のヒットした作品が結構あったので、それは一通り全部読んでました。

はとむぎ 全巻残ってるんだ！私の親も漫画が好きで、その影響で好きになってるんですけど。でも多分引越しの際に捨ててるんですよ。あれば読めたのと思います。家族の影響って大きいですよ。

● 3つの質問 ●

ー続いて3つの質問です。①今はまっていることを教えてください。

さくら コーヒーや紅茶を飲み比べすることです。お店で飲んだり、自分で淹れて飲むこともあります。

ー飲み物にこだわるのはすごく豊かな感じがしていいですね。

さくら ありがとうございます。特に、コーヒーだとカフェオレ、紅茶だとピーチティーにはまっています。

ー何かはまるきっかけがあったんですか？

さくら 最初、私コーヒーが嫌いで。自分の親がコーヒー好きなんです。それで興味があって、最初のころは全然だめだったんですけど、ここ数年くらいで好きになりました。

はとむぎ 私は、ハロプロのアイドルにはまっています。特に「アンジュルム」と「Juice=Juice」っていうグループが好きです。悲しいのが、両方のグループのリーダーが今年卒業しちゃうんですよ。行きたかったんですけど、東京って遠いじゃないですか。だから三重からエールを送ろうと思っています。

ー特にリーダーが好きなんですか？

はとむぎ 私はいわゆる箱推しなんです。それぞれグループの特色があって、「アンジュルム」は割と元気かっこいい感じ。「Juice=Juice」は全員が歌が上手。全員好きなんです。一人ずつ説明したら一時間くらいかかっちゃう。(笑) それぐらい好きなんです。

ー前回のゆめさんからの質問、②ケーキを食べる時、飲み物は何にしますか？

さくら 紅茶です。

はとむぎ 私も一緒、紅茶です。

さくら 私はストレートで飲む時と、レモンを入れる時とあります。

はとむぎ 私もレモンをよくいれます。気分によって角砂糖を入れます。



—なかさんからの質問です。③普段何を飲みますか？こだわりはありますか？

さくら 番茶かほうじ茶です。こだわりは毎朝自分で淹れることです。

はとむぎ いいな。私もそういうゆとりのある朝を過ごしてみたい。私は、朝、コーヒーを飲みます。本当に朝が弱いので、カフェインがないと困るんですよ。ブラックはあまり飲めないの、ネットではちみつが合うってのを見て、入れてみたら案外おいしくて、最近のはちみつ入りのコーヒーを飲んでます。

—糖分も摂れてよさそうですね。朝はご飯派ですか？パン派ですか？

さくら 完全にごはん派ですね。

はとむぎ 私は決まってないです。両方あります。今日はおかゆでした。おかゆとコーヒーってちょっとアンバランスな感じなんですけど。

さくら 絶対毎日食べるのはご飯とお味噌汁ですね。

はとむぎ 優雅に過ごしてそう。ホームステイしに行きたい。(笑)

—今日は大切な本のお話をありがとうございました。授業、がんばってください。いつてらっしゃい。

さくら・はとむぎ ありがとうございます。いつてきます！

MIETAN
今回の 本つなぎ

●さくらさん●
『風のなかのマリア』 (百田尚樹著 / 講談社)
『置かれた場所で咲きなさい』
(渡辺和子書 / 幻冬舎)
『どんな時でも人は笑顔になれる』
(渡辺和子著 / PHP研究所)

●はとむぎさん●
『片恋の日記少女』 (中村明日美子著 / 白泉社)

6



次の2人へ
本つなぎ。
次回もお楽しみに♪

写真ってよく撮りますか？

今回は 写真の持つチカラを発見できる

そんな写真の本をご紹介します。





『Miniature life』

Miniature Calendar

田中達也 写真・編集・デザイン

Miniature Calendar 2013年

748||Mi 44

小人の視点から見てみると、身近な物にもストーリーが見えてくる。ブロッコリーが森になり、トイレトペーパーがスキー場になり、バーコードがピアノになり…何て楽しいんだろう。小さな視点から大きく広がっていく感覚を味わえる。

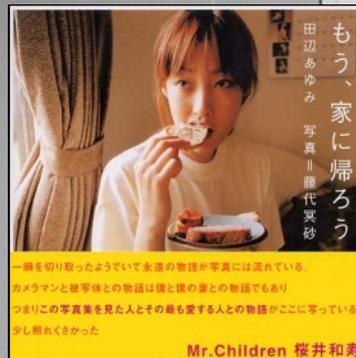
『浅田家』

浅田政志 著

赤々舎 2008年

748||A 81

津市内を中心に撮影された家族の記念写真。浅田家の記念写真は一般的な記念写真とは少し違う。「それは自ら記念をつくっていく記念写真です。待っていてもなかなか来ない記念日を、写真を通じてつくりあげていく。」写真を作っている姿、そしてその後の家族の姿を想像させる一冊。



『もう、家に帰ろう』

藤代冥砂 著

ロッキング・オン 2004年

748||F 66

著者の妻であるモデルの田辺あゆみを撮影した一冊。この本を見ると、何でこんな気持ちになるんだろう。あこがれのような、自分もそこにいるような、泣きたくなるような。日々はとても美しい。

『ダカフェ日記』

森友治 撮影・文

ホーム社 2007年

748||Mo 45

ある家族の日常の風景をおさめた写真の数々。あたたかくて、優しく、クスッとおかしかったり。流れていく毎日をしっかりと見つめてみたくなる。





『シマエナガちゃん』

小原玲 著

講談社ビーシー 2016年

748||O 27

北海道で暮らす小鳥・シマエナガ。コロンと丸っこい姿が特徴。かわいいとしか言えないくらい、とにかくかわいい写真がたくさんの一冊。



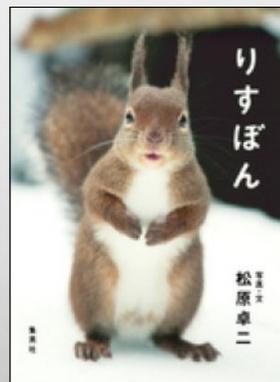
『りすぼん』

松原卓二 写真・文

集英社 2011年

748||Ma 73

キラキラしたりすの目に見つめられる。食べたり、走ったり、跳んだり、生き生きとしたりすの姿を、間近で観察しているような気持ちになる一冊。



『My Room 天井から覗く世界のリアル』

55ヵ国1200人のベッドルーム』

ジョン・サックレー 著

ライツ社 2018年

748||Th 1

天井から撮影された世界各国の人々の部屋からリアルが伝わってくる。人の暮らしを覗いてみたいという興味本位では終わらずに世界へ目を向けるきっかけとなる一冊。



『BLUE MOMENT』

吉村和敏 著

小学館 2007年

748||Y 91

「ブルーモーメントー 夕焼けが終わり、夜の闇がはじまる前に訪れる、12分足らずの儂い時間。」ページをめくるたびに、世界の様々なブルーモーメントの美しさに包まれる。



Book design

の世界

vol. 7

祖父江 慎さん

本を選ぶ時、表紙や本のデザインに惹かれて選ぶことがあります。本を開くとそこに書いてある「装丁」という言葉と名前。

本のデザインをする仕事を装丁家やブックデザイナーと言います。この連載では本のデザインや装丁から、本を楽しみたいと思います。

第7回目は 祖父江慎さん+コズフィッシュです。

祖父江慎さんは愛知県出身のブックデザイナーです。1990年にデザイン事務所「コズフィッシュ」を設立。造本装幀コンクール文部科学大臣賞など受賞されています。小説・漫画・雑誌など幅広く手がけ、斬新なブックデザインでも注目を集めています。著書に『祖父江慎+コズフィッシュ』（パイインターナショナル/2016年）などがあります。



装画：さくらももこ
装丁：祖父江慎
+コズフィッシュ

個人的に祖父江さんと言えば、さくらももこさんです。祖父江さんはさくらももこさんの本のデザインを多く手がけられています。さくらさんのエッセイの中に祖父江さんは「くいしんぼう同盟」のメンバーとして登場されています。まずは『ももこの宝石物語』（さくらももこ著/集英社/2002年/755.3||Sa 46）を紹介します。宝石にまつわるエッセイ集。ゴージャスというよりカラフルでかわいらしい印象で、表紙を開くと中のページの角が丸くなっていて、ページをめくるのが楽しくなります。



装画：酒井駒子
ブックデザイン：祖父江慎
+cozfish

次は、『金曜日の砂糖ちゃん』（酒井駒子著/偕成社/2003年/726.6||Sa 29）です。3つの小さなお話の絵本。お話ごとにページの色が違っていて、白がほんの少しオレンジや灰色がっています。お話の持つ静かな空気感を大切に、作品に丁寧に引き合わされたデザインだと感じます。

「やっぱり全体でこそ本なんです。(中略)本体はおもしろいですよね。文字組とか版面とか紙とか製本とか。ジャケットデザイン以外のところで、いかに内容を伝えられるのか?というテーマに日々励んでいるんですよ」と祖父江さん。

『ルー=ガルー 忌避すべき狼』（京極夏彦著/徳間書店/2001年/913.6||Ky 6）は、近未来を舞台にしたミステリーです。女性の表情と色使いが印象的なイラストが使われています。紙の透け感なども含めて緻密に考えられたデザインです。

『本の本 書評集 1994-2007』（斎藤美奈子著/筑摩書房/2008年/019||Sa 25）は、約700冊の書評を集めた大ボリュームの一冊です。事典のようなデザインで、たくさんの書評が見やすく読みやすい本になっています。

最後に、祖父江さんがブックデザインを手がけられた「よりみちパン!セ」シリーズから『どんとこい、貧困!』（湯浅誠著/理論社/2009年/368.2||Y 96）を紹介します。中学生以上を対象としたシリーズなので、フォントや文字の組み方などの工夫によって、内容が伝わりやすく手に取ってもらいやすい本に仕上がっています。

祖父江さんは「自分がつくるというよりは、内容に応じて外側はおのずと決まってるんですよ。ブック・デザインは自己表現のためではないし、デザイナーは媒介する役目なので、デザイナー個人のキャラクターは消えてしまうのが理想です。その本の内容に一番合った形をこの世に降ろしてくるような仕事です。」と語られています。祖父江さんの手によって本の細部にまでこだわって作られたデザインが、素敵な本となって手元に届くことの素晴らしさを実感しました。

引用・参考文献：『グラフィック・デザイナーの仕事』（祖父江慎 ほか著 / 平凡社 / 2003年）
『菊池亜希子のおじゃまします』（菊池亜希子著 / 集英社 / 2014年）
『さくら日和』（さくらももこ著 / 集英社 / 1999年）



イラスト：Masayuki Ogisu
ブックデザイン：祖父江慎
+coz-fish



ブックデザイン：祖父江慎
+吉岡秀典(コズフィッシュ)



装画・挿画：
100%ORANGE/及川賢治
ブックデザイン：
祖父江慎
+佐藤亜沙美(cozfish)

ちょこちょこ日記 #17 「No.77」



この前、スーパーで買い物をした時、お会計が「777円」だったんです。すごい！やった！と思って、レジの方に話しかけたくりましたが、我慢しました…。ちょっとうれしいできごとだった

ので、ちょこちょこ日記に書いてみました。みなさんに、いいことがありますように☆

みなさんは、ラッキーナンバーや、この数だとちょっとうれしい、そんな数字はありますか？ 私は「3」です。誕生日に3が付くからという単純な理由なので、ラッキーナンバーというわけではないのかもしれませんが、数字を選ぶ時は3を選びます☆

最後に、数字にまつわる本をご紹介します。

『数字のモノサシ 絵で見る数字の感じ方』（寄藤文平著／大和書房／410.4||Y 84）です。毎日何気なく見ている数字を、新しい視点で楽しく見つめなおせる一冊です。読んでみてください。

こんな本読んでみて No.77

2019年6月1日 発行

編集・発行 三重短期大学附属図書館

〒514-0112 三重県津市一身田中野157

<http://www.library.tsu-cc.ac.jp/>